



さわやか



目次

50号について.....	1
ごあいさつ	2~3
国保中央病院について	3
診療科の紹介	4~6
新型コロナウイルス感染症対策	7
お知らせ	7
無料送迎バス広域運行の実証運行期間の延長	8
外来診療案内	8

基本理念

医療の質を高めることにより、地域住民の皆さまの健康保持と増進に寄与し、住民の皆さまに信頼され、愛される心温かな病院を目指します。

国保中央病院 広報誌「さわやか」は みなさまに愛されて50号を迎えました

「さわやか」は、患者様、地域の皆様へ向けて、国保中央病院の機能や特徴、各診療科の案内や健康・生活に役立つ情報、病院の行事などを発信し、国保中央病院を知っていただき、身近に感じていただくことを目的として2007年(平成19年)1月に第1号を発行し、この度50号記念誌を発行する運びとなりました。

これからも、国保中央病院の様々な情報を発信し、皆様に愛される紙面づくりを目指していきますので、今後も「さわやか」をよろしくお願いいたします。

国保中央病院 広報誌委員会



さわやか 第1号

広報誌「さわやか」のバックナンバーを当院ホームページに掲載しております。(PDF形式)

QRコード



当院ホームページ(当院について➡広報誌さわやかの順に進んでください)

<https://www.kokuho-hp.or.jp/about/sawayaka/>

※PDF形式のファイルをご覧ください。Adobe社のAdobe Readerが必要です。

院長あいさつ



国保中央病院
院長 阪井 利幸

今回、国保中央病院広報誌「さわやか」は、第50号の発行となりました。この広報誌は国保中央病院のことを住民の皆様にもっと知っていただけるように、病院のニュースや各診療科の情報、病気についての知識などを中心に掲載してまいりました。今後も皆様の健康維持のお役に立てるようさらに充実した内容を目指してまいります。

さて当院は、平成5年に開院し、これまで地域、特に磯城郡3町と広陵町の自治体病院としてその役割を果たしてまいりました。平成26年までは主に急性期疾患に対応する病院として機能してきましたが、高齢化社会に向けて急性期だけでなく、回復期、慢性期の患者様の需要が増えてきたため6階病棟を回復期病棟（地域包括ケア病棟）としました。

また、当院は、政府や県が推し進めている地域包括ケアシステム構築の中で、医療、介護がこの地域で完結できるように、地域の開業医の先生方や介護施設、訪問看護ステーションなどと当院の地域支援センターと連携を密にし、患者様がスムーズに入院や退院ができるように調整し、医療と介護の連携に努めてまいりました。また、当院の訪問看護ステーションでは退院後の患者様が在宅で引き続き適切な医療や介護が受けられるようにお手伝いをさせていただいています。

しかし、令和2年からは新型コロナウイルス感染症が拡大し、県からの要請を受けて当院でもコロナ感染症患者を受け入れるために院内感染防止のための医療機器を整備し、地域包括ケア病棟を一時休止してコロナ感染症病棟としております。現在までに県や保健所からの依頼を受けて多くのコロナ感染者の治療を行ってきました。しかし、そのためにリハビリを十分にさせていただく病棟がなくなったために住民の皆様には大変ご迷惑をかけております。また、病院玄関では検温、問診などのトリアージを実施しており、面会も原則禁止にするなど、いろいろご不便をおかけしますが、院内感染を防ぐためにもご理解とご協力を引き続きよろしくお願いいたします。

今後、コロナ禍が終息した時には、地域包括ケア病棟を患者様の療養環境をさらに改善するための改修を計画するとともに将来の病院の全面改修なども検討しています。

当院は4町の住民皆様方のための公立病院です。このことを職員一同しっかり胸に刻んで今後も住民の方々に信頼され、愛される病院を目指して、ますますの努力をしていく所存ですので一層のご理解とご支援をお願いいたしましてご挨拶とさせていただきます。

国保中央病院組合 管理者あいさつ



国保中央病院組合
管理者 森 章浩
(田原本町長)

この度、国保中央病院広報誌「さわやか」が発行第50号を迎えることになりました。長きにわたって地域住民の健康保持と増進に寄与していただきました国保中央病院の歴代の院長をはじめ医師、看護師、医療従事者の方々に改めて敬意を表するところです。

「さわやか」は、住民の皆様が普段病院を受診されたときに担当いただくお医者さんたちが、病気のことや病院の新しい情報などをやさしく説明されており、私も親しみを感じながら毎号拝読しております。少し遡ってみますと、第49号では泌尿器科の案内、第48号では外反母趾、第47号では下肢静脈瘤、第46号では脱腸などと、身近な病気を取り上げています。病院にはこれからも住民のニーズに寄り添った情報発信をよろしくお願いいたします。また、住民の皆様には「さわやか」を積極的に活用いただき、何か気になることがありましたら、お気軽に病院までご連絡ください。

一方で、現在、新型コロナウイルス感染症の収束は、まだまだ見通せない状況であります。国保中央病院では、新型コロナ患者の受入をするとともに、しっかり感染防止対策をとって、住民の皆様が安全で安心して受診できるよう取り組んでいることを、管理者としてお伝えしておきます。

結びに、広報誌「さわやか」がより一層地域の皆様に親しまれる広報誌として回を重ねること、併せて地域の皆様のご健康を心より祈念申し上げ、発行第50号に寄せる言葉とさせていただきます。

田原本町医師会 会長 あいさつ



田原本町医師会
会長 植山 正邦
(植山医院)

国保中央病院広報誌「さわやか」50号の発刊に際してお祝い申し上げます。

近代医療は感染症との戦いでした。ワクチンや血清療法、抗生剤の発明によって克服出来たかのように見えてきましたが、地球温暖化、森林伐採などの環境破壊、交通機関の発達による人流の増加によって20世紀後半から新しい感染症が発生し、21世紀は感染症の時代と云われていました。案の定、新型インフルエンザに続いて、新型コロナウイルスのパンデミックが起こり100年前のスペイン風邪以来の大惨事になってしまいました。

このような状況のなかで、国保中央病院はいち早く発熱外来を開設し、新型コロナ感染症患者の受入れを始められ、重点医療機関として奮闘されています。また、医師会は、国保中央病院、田原本町との協力のもと、ワクチン接種を順調にすすめることができました。感謝申し上げます。今後も引き続きご協力をお願いいたします。

さて、国保中央病院は平成17年に奈良県初のホスピスを開設し、地域がん診療連携支援病院に認定され、令和2年には訪問看護ステーションを開設して地域の基幹病院としての役割を担っておられます。また、小児アレルギーセンター、消化器病センター、肝疾患中核専門医療機関、透析治療、リウマチ外来など各診療科が切磋琢磨され、診療と研究、そして医学生の教育にも励まれています。

国保中央病院はもうすぐ創立30周年を迎えられ、今後の更なる飛躍をお祈り申し上げます。

国保中央病院について

所在地等	奈良県磯城郡田原本町宮古404-1 TEL 0744-32-8800 ホームページアドレス▶ https://www.kokuho-hp.or.jp		
構成団体	川西町・三宅町・田原本町・広陵町		
開設日	平成5年4月1日	開設者	国保中央病院組合
管理者	森章浩(田原本町長)	院長	阪井利幸
診療科目	内科・外科・整形外科・小児科・泌尿器科・皮膚科 放射線科・麻酔科・緩和ケア科・心療内科 リハビリテーション科		
病床数	220床		

●基本理念

医療の質を高めることにより、地域住民の皆様の健康保持と増進に寄与し、住民の皆様に信頼され、愛される心温かな病院を目指します。

●指定保険医療機関

奈良県地域がん診療連携支援病院
肝疾患に関する医療圏中核専門医療機関
臨床研修指定病院(協力型)等



国保中央病院
KOKUHO CHUO HOSPITAL

●当院のロゴマーク

4町をイメージした四つのシンボルが交わり一つになる様子をシンボライズしたデザイン。加え、このシンボルは心身の健康や安らぎ、幸せを表現したクローバーをモチーフにしています。



平成17年5月 奈良県初となるホスピス
「緩和ケアホーム飛鳥」開設



通院治療センター
(外来化学療法室)



平成20年4月
地域支援センター開設



令和2年4月
訪問看護ステーション開設

当院の診療科紹介

内科

主任部長	吉川 雅章
部長	竹田 幸祐
部長	塩山 えりか
医 長	松永 多恵
医 員	高井 利恵子
医 員	尾山 雅文
医 員	森本 一祐
医 員	榎木 優

【非常勤医員】

堂原 彰敏	久保 貴裕
石田 光志	石原 里美
野木 一孝	



内科は、常勤医8名と非常勤医5名で診療を行っています。ガイドラインに則した医療の標準化に取り組む一方、患者様一人ひとりの社会的環境や希望を第一に考え、医師、看護師、栄養士、薬剤師、理学療法士、検査技師、事務スタッフといった多職種によるチーム医療で、治療・療養をサポートしています。

常勤医のうち5名は、日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会が認定する専門医資格を取得しており、消化器領域の疾患については、初期診療から専門性の高い治療まで提供させていただいています。これまで、消化管出血に対する緊急内視鏡的止血術、大腸ポリープ切除術や粘膜切除術(EMR)、胃癌の内視鏡的治療(ESD)、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)検査および結石除去術、内視鏡的イレウス管挿入術、エコー下肝生検、肝癌に対するラジオ波焼灼術といった専門診療を行ってまいりました。このような治療を必要とする患者様や、診断や治療に難渋されている症例、健康診断により消化管内視鏡検査や腹部超音波検査、CT、MRI検査といった二次精査が必要な患者様など、お気軽に受診・ご相談いただければ幸甚に存じます。

なお、内科の病気は、心臓疾患、脳神経疾患、肺疾患など多岐にわたります。地域医療の責務を果たすため、出来るかぎり幅広い診療に努めておりますが、消化器領域以外の専門診療を必要とする場合は、近隣の医療機関に紹介させていただいています。

外科

副 院 長	山田 行重
主任部長	杉森 志穂
部 長	明石 諭

【非常勤医員】

吉川 高志	田村 大和
-------	-------



外科は現在3人の常勤医で以下の疾患に対して診療・治療を行っています。

悪性疾患に対して

消化器癌(主に胃癌・大腸癌)や乳癌の悪性疾患に対して、ガイドラインに沿って、患者様のいろいろな状態や背景を考慮し、一緒に考えて治療を行っています。消化器癌に対しては内科と連携しながら、内視鏡的治療の適応とならないものに対して、手術(開腹術や腹腔鏡手術)を行っています。乳癌や乳腺疾患に対しては、マンモグラフィー・乳腺エコー・造影MRIなどの画像検査や組織検査を行い、診断しています。乳癌で手術が必要な場合は適応があれば乳房温存手術やセンチネルリンパ節生検などQOLを重視した治療を行っています。また手術だけでなく、これらの癌に対して術前・術後の補助化学療法や転移・再発に対する化学療法も行っています。緩和医療は当院緩和ケア科と連携して行っており、緩和ケア病棟「飛鳥」にすぐに入院できない時などは、一時的に本館に入院していただき、治療を行っています。

その他の消化器疾患に対して

主に胆石症などの良性胆嚢疾患、急性虫垂炎、ソケイヘルニアに対しての診察や手術(腹腔鏡手術も含む)を行っています。また、けがなどに対する処置(創傷処置)を行っています。

今後も地域の皆様のお役に立てるように努力いたします。

整形外科

副 院 長	佐本 憲宏
部 長	吉良 務
医 員	濱田 岳
医 員	三島 佑規

【非常勤医員】

片山 健	荒木 正史
米田 梓	



整形外科では、外傷と退行性変化(老化)による四肢の関節や筋腱の障害に対して診療をしています。基本的に保存治療(手術以外の治療)を選択しますが、障害のタイプや重症度に応じて手術を行います。当院整形外科の特色として、足・足関節(足首)疾患のエキスパートである佐本医師が、変形性足関節症・扁平足・外脛骨障害などの疾患に対し治療経験豊富で、特に外反母趾手術は今まで年に80例以上と多く手掛けており、遠方からの患者様も受け入れています。また、吉良医師と片山医師(非常勤)は手や肘の上肢の障害に詳しく対応しており、神経の障害である肘部管・手根管症候群や手・手指の筋腱・靱帯損傷の治療、リウマチによる変形や顕微鏡を使った手術も行なっています。

胴体に近い部位や長時間の手術は麻酔科医師に「全身麻酔」を依頼しています。一方、手足の短時間手術は、エコー(超音波画像診断装置)で腕や脚の神経を確認してその周囲に麻酔薬を注射する「伝達麻酔」も当院では可能です。全身麻酔は寝ている間に手術が終わりますし、伝達麻酔は腕一本、脚一本だけの麻酔ですので手術後すぐに飲食やトイレ移動などが可能で、時には入院が不要です。手術の種類やお持ちの病気により適宜使い分けております。

他にも膝・足・肘・手関節の関節鏡治療、股関節・膝関節・足関節・肘関節・手指関節の人工関節も行なっており、専門治療を含めて幅広く整形外科全般を診療しております。

小児科

院長 阪井 利幸
主任部長 高川 健
部長 中農 昌子
部長 飯田 陽子
医長 橋本 直樹
医員 西山 優



当院小児科は中南和地域の中核医療機関の一つとして、構成団体である磯城郡3町・広陵町、さらには周辺地域から幅広く小児内科疾患の患者様を対象に診療しております。

午前の外来は急性疾患を中心とした一般小児科外来を、火曜日から金曜日の午後は予約診療として、慢性疾患の専門外来や予防接種外来を行っています。当院では令和2年4月から小児アレルギーセンターを設置し、日本アレルギー学会専門医の中農医師を中心として、橋本医師や小児アレルギーエデュケーター資格を有する看護師、薬剤師、栄養士とチームをつくり、食物経口負荷試験を施行する他、アレルギー教室（エピペン教室・スキンケア教室・喘息教室）を定期的開催するなど、アレルギー疾患の包括的な診療を行っています。

また、てんかんなどの痙攣性疾患を主とした神経疾患、ネフローゼ症候群や夜尿症を主とした腎疾患は高川医師が、低身長症、思春期早発症、肥満症などを主とした内分泌・代謝疾患は飯田医師が中心となって対応しています。痙攣性疾患は状況を分析した上で脳波検査やMRI検査を必要に応じて行い、丁寧な診療を心がけております。また夜尿症では生活指導を基本として薬物療法やアラーム療法を適宜選択し診療しています。低身長症は必要に応じて成長ホルモン（GH）分泌負荷試験などを行い、GH分泌不全が認められる場合などにGH補充療法を行っており、ご家庭で安心して注射が行なえるようサポートさせて頂いています。

また、当院は中南和地域の小児救急二次輪番体制でも中心的な役割を果たしております。今後も地域の小児医療のニーズに応えられるように力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

泌尿器科

部長 望月 裕司
【非常勤医員】
中井 靖 後藤 大輔



社会の高齢化に伴い、泌尿器科疾患に罹患される患者様が增加しており、我々泌尿器科医の果たすべき役割もさらに重要となっております。

当科は、奈良県立医科大学泌尿器科学教室の関連施設、日本透析医学会教育関連施設となっております。常勤医1人となりましたが、奈良県立医科大学や近隣施設より医師を招聘し診療を行っています。

診察領域は尿路性器悪性腫瘍、排尿障害、尿路結石症、人工透析など多岐にわたります。悪性腫瘍では前立腺癌疑いに対して麻酔下で痛みを伴わずに行う生検検査、膀胱癌に対する経尿道的内視鏡手術を主に行っております。また尿路結石症に対しては2013年に導入したレーザーを使用し、尿管鏡を用いた経尿道的碎石術（TUL）を行っています。腹膜透析はしておりませんが、血液透析は広くて明るい室内に22台のベッドを備え、テレビをみながら快適な治療環境を提供し、透析専門医として腎不全状態に対する血液透析の導入・維持透析を行っています。また腎移植につきましても、奈良県立医科大学泌尿器科学教室と連携をとっております。

最後に、我々は常に患者様の生活の質（QOL）を第一に考えた治療を目指しており、最新の治療ができるように心がけておりますので、よろしくお願い申し上げます。

緩和ケア科

部長 中村 契
【非常勤医員】
武田 真幸



「がんの治療と緩和ケアはセットで」

皆さんは虫歯の治療を受けるとき局所麻酔をしてもらいますよね。麻酔なしで治療する歯医者さんにはできれば行きたくないですよ。がんの場合も同じです。がんだからといって痛みを耐えながら治療を受ける必要はありません。緩和ケアは痛みなどの苦痛を和らげるための治療です。いまでは「がんと診断されたときからの緩和ケア」が合言葉となっています。2007年策定のがん対策推進基本計画の中で「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」が目標に掲げられました。つまり、すべてのがん患者様は緩和ケアを受けて苦痛を和らげてもらう権利があるのです。もちろんがんの治療が終了した後も緩和ケアは継続できます。いまは緩和ケアを専門としない医師であっても基本的な緩和ケアを習得することが求められていますので、昔と比べるとずっと緩和ケアを受けやすい環境が整っています。しかし痛みのやっかいなところは「痛みは患者様本人にしかわからない」ということです。痛みは目に見えないので患者様に教えてもらわなければ医者は痛みに気づくことができません。

皆さん、お医者さんにきちんと痛みを伝えられていますか？「この痛みは取れない」「言ってもしかたがない」とあきらめずに、ぜひ皆さんの主治医に相談してみてください。

麻酔科

部長 神谷 達



麻酔科医は手術が安全に実施されるように働いています。麻酔により、患者を手術のダメージから守り、術者が手術をしやすくなるようにしています。

麻酔の計画を立てる時は、患者様の年齢、性別、身長、体重、現病歴・既往歴・家族歴、麻酔と関連のある合併症や疾患、アレルギーの有無、使用薬剤そして手術術式に関する情報を知ることが重要です。これらの情報を麻酔科医と手術室看護師で共有して麻酔管理をしています。

当院では外科、整形外科、泌尿器科の手術が行われており、麻酔科はそれらの手術の全身麻酔を担当しています。

全身麻酔の条件としては、①意識が無い、②痛みを感じない、③体が動かないがあり、これらにより、呼吸が止まってしまうので、麻酔中は気管挿管、人工呼吸をしています。そして、手術終了時にこれらが元に戻ることが重要です。作用時間の短い調節しやすい薬、拮抗薬で作用を打ち消す事ができる薬を使う事で、高齢の患者でも覚醒遅延を起こさない様にしています。

麻酔中、麻酔科医は常に患者様の頭もとにいて、パルスオキシメーター、心電図、血圧計、出血量、尿量、体温をモニターしています。低酸素、低血圧、貧血を避ける麻酔管理をして、脳への酸素供給を十分にすることを目指しています。

また当院では、手術室にリラックスして入室出来るように、患者様の好きな音楽を流すようにしています。ご希望の曲がある場合は、術前に訪問する手術室看護師に伝えてください。

皮膚科

【非常勤医員】小川 浩平 西村 友紀 篠田 進

リハビリテーション科

【非常勤医員】 相澤 智紀

放射線科

【非常勤医員】西尾福 英之 堀内 克俊

心療内科

【非常勤医員】 四宮 敏章

看護部

看護部は、「思いやりの心を第一とし、知識・技術を高め、専門職としての能力を高めます。そして看護活動を通して地域に貢献します」という理念を掲げ、療養生活において「その人らしさ」を大切に、安心して過ごしていただけるよう、安全かつ信頼される看護の提供を目指しています。

2025年を目前に控え、超高齢化社会を地域全体で支えるための地域包括ケアシステムが推進されています。その中で私達は、患者様が病気をもちながらも地域の住み慣れた環境で暮らせることを支援するために地域の医療関係者・介護関係者・訪問看護ステーションとの連携を強化し、病状に合わせて病院と在宅を行き来できる環境を提供できるように日々努力しています。

訪問看護ステーション

当院の訪問看護ステーションは令和2年4月に開設しました。最初は少なかった利用者数も徐々に増えていき、現在では緩和ケアが必要な利用者様の支援や、在宅での看取りも支援させていただいております。当院の訪問看護ステーションでは利用者様はもちろん、在宅で利用者を介護する家族様にとって「その人らしい生活が送れる」ことを目標に活動しています。今後も国保中央病院訪問看護ステーションをよろしく申し上げます。



地域支援センター

地域支援センターでは現在、室長以下、医療ソーシャルワーカー(MSW)2名、退院調整看護師1名、社会福祉士1名で活動しています。地域支援センターの業務は、地域の医療機関との連携、当院に入院されている患者様の退院時のサポート、当院ホスピスへの入所に関する相談をはじめとするがん患者様のサポートなど、主に地域と患者様をつなぐ役割を担っています。また、患者様やご家族様の療養上の様々なお悩み等の相談もお受けしておりますので、お気軽にご相談ください。



当院の新型コロナウイルス感染症対策について

当院が行った新型コロナウイルス感染症対策の経緯

2020年	1月	日本で初めての新型コロナウイルス感染症患者が確認される。 当院で緊急対策会議を開き、患者対応について協議開始。 一般患者とは別に発熱外来を設けて対応することに決定。
	3月	原則面会禁止とする。
	4月	正面玄関にて来院者に対し検温、問診等を開始。 疑似症患者の受入開始。
	5月	ドーム型診察室を設置し、発熱患者に対応する。
	7月	疑似症患者の受入を拡大。
	10月	新型コロナウイルス感染症受入協力医療機関 として奈良県に登録する。 帰国者・接触者外来を設置・開始する。
	12月	当院院内でPCR検査(LAMP法)開始。
2021年	1月	新型コロナウイルス感染症重点医療機関に指定。 コロナ陽性患者の受入を開始する。(受入病床4床)
	2月	受入病床(2床)を増床する。
	3月	当院職員(医療従事者)のワクチン接種完了。
	4月	奈良県の要請を受けて受入病床をさらに増床(3床)する。
	9月	入院患者の面会を完全に禁止とする。 小児の発熱患者の対応として 「小児科抗原検査センター」を設置する。
	11月	奈良県の要請を受けて受入病床をさらに増床(3床)する。(現在12床)



ドーム型診察室(屋外)



発熱患者診察室(屋外)



小児科抗原検査センター(屋外)

当院では、今後も患者様の安全・安心を確保するため、新型コロナウイルス感染症対策にしっかりと取り組んでまいります。

皆様においては、入館時の検温・手指消毒と館内でのマスク着用にご協力をお願いいたします。
また、当面の間、入院患者様への面会は禁止させていただきます。

お知らせ

マイナンバーカードを利用した「オンライン資格確認」について

令和3年11月1日より、マイナンバーカードを利用した健康保険の「オンライン資格確認」を実施しております。

転職や引っ越しなどで健康保険証の変更があっても新たな健康保険証の発行を待たずに受診が可能となったり、高額療養費制度を利用するための限度額適応認定証等の持参が不要になるなど、患者さんに、メリットがあります。

当院の①番初診受付窓口及び夜間救急受付に機器を設置していますのでご利用ください。詳しくは①番初診受付窓口までお問合せください。



アレルギー教室のご案内

オンライン開催となります。**参加無料**です。ぜひご参加ください。

乳幼児スキンケア教室

2月4日(金)13:30～



エピペン教室

3月23日(水)15:30～



※QRコードを読み取り、申込フォームに必要事項を入力してください。当院ホームページからお申込みできます。

お問合せ

企画総務課 峯川 TEL 0744-32-8800

✉ kikaku1@kokuho-hp.or.jp

無料送迎バス広域運行の実証運行期間の延長について

現在、近隣住民様の通院等における交通の利便性向上を図るため、無料送迎バスの広域運行の実証運行を行っております。

実証運行の期間について、下記のとおり延長することといたしましたので、利用者の皆様におかれましては、ご留意願います。



【実証運行の期間】

変更前 令和3年10月1日(金)～令和4年3月31日(木)

変更後 令和3年10月1日(金)～令和4年6月30日(木)

◆広報誌「さわやか」についてのご意見・ご感想等を募集します◆

今後の広報誌作成の参考にさせていただきたいので、皆様のお声をお寄せください。(いただいたご意見等への個別回答は行いません)
国保中央病院ホームページの「お問合せ」よりお寄せください。
皆様のお声をお待ちしております。

**お問合せフォーム
QRコード**
※内容に「さわやか」の件
とご記入ください。



外来診療案内

※赤字は女性医師です。 令和4年2月現在

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	一診	吉 川	竹 田	吉 川	竹 田	吉 川	担当医
	二診	竹 田	松 永	尾 山	松 永	塩 山	—
	三診	久 保	榎 木	森 本	石 田	尾 山	—
	四診	森 本	堂 原 (肝臓外来)	野 木 (循環器)	—	榎 木	—
	五診	石 原 (循環器)	—	—	—	—	—
	午後	—	—	榎 木 (禁煙外来)	—	—	—
外科	一診	山 田	—	山 田	—	第1・第3田村 (心臓血管外科)	吉 川
	二診	明 石	杉 森	担当医	明 石	杉 森	担当医
整形外科	一診	佐 本	荒 木	佐 本	片 山	吉 良	担当医
	二診	吉 良	—	濱 田	—	米 田	—
	三診	—	—	三 島	—	—	—
小児科	一診	阪 井	中 農	飯 田	高 川	橋 本	担当医
	二診	飯 田	高 川	橋 本	中 農	阪 井	担当医
	午後	—	予約外来 (慢性疾患) 予防接種	予約外来 (慢性疾患) アレルギー外来	予約外来 (慢性疾患) アレルギー外来	予約外来 (慢性疾患) 乳児検診	—
泌尿器科		望 月	望 月	望 月	望 月	中 井	望 月
皮膚科		—	小 川	篠 田	西 村	—	—
緩和ケア科(ホスピス外来)(完全予約制)		中 村	中 村	—	—	中 村	—
緩和ケア外来(完全予約制)		山 田	杉 森	—	—	—	山 田
心療内科(精神腫瘍科)(完全予約制)		—	—	—	四 宮	—	—

診療受付時間 初診は午前8:30から午前11:00まで
再診は午前8:00から午前11:00まで
※泌尿器科診療開始時間は9:30からとなります。

休診日 第2・4土曜日・日曜日・祝祭日
12月29日～1月3日 年末年始休暇

※受付時間以外の時間帯で診察を希望される場合、お電話等にてお問い合わせください。
※リハビリテーション科は当面は院内患者様に限らせて頂きます。※担当医は変更となる場合があります。

アクセス



無料送迎バス・アクセスのご案内

■近鉄田原本駅・西田原本駅下車、
無料送迎バス利用、約8分

**令和3年10月1日より
無料送迎バス広域運行の
実証運行を行っています。**

各駐停車場所及び時刻表については、
当院ホームページをご確認ください

■近鉄黒田駅下車、徒歩約10分

編集発行：国保中央病院(広報誌編集委員会)
発行部数32,750部

